

山形大学人文社会科学部外部評価報告書

山形大学人文社会科学部では、大学改革支援・学位授与機構による大学機関別認証評価の一環として、令和6年度に、教育、研究、地域・社会貢献を観点とした第三者評価を実施しました。

3名の外部委員に、人文社会科学部に加えて、大学院社会文化システム研究科及び大学院社会文化創造研究科（社会文化システムコース）を評価対象とした評価をお願いしました。外部委員には、これまでの取組への評価とともに、改善を必要とする点や今後の進め方に関する指摘・助言も含む、外部評価実施報告書を作成いただきました。

以下に、評価の概要と指摘事項への対応について説明します。

外部委員から優れていると評価された点は以下の通りです。

- 1) DP,AP,CP の体系的な整備
- 2) 教育カリキュラム自己点検機能の構築
- 3) 多様な入試制度の実施
- 4) 海外研修制度を含む学修活動の充実
- 5) ナスカ研究をはじめとした多様な研究の活況

1) 2) は、平成29年度の学部改組の際に重視した取組です。学生受入、教育課程編成、学位授与、それぞれの方針を明確にすることで複数の学位プログラムを体系的に構築し、教育課程については、カリキュラム・チェックリストを用いてポリシーとの整合性を検証したうえで、その効果を基盤力テストと学生による授業評価アンケートによって確認し、複数の視点からの点検、改善を実現しています。3) の入試制度についても、これらのポリシーに即した多くの試験区分を設定・運用していますが、それらが有効に機能していることは、入学後の学修状況の調査によっても跡づけられます。人文社会科学部では、今後も自己点検評価を利用した教育成果の検証と改善に取り組んでまいります。

4) の学修活動の支援については、自習スペースや演習室、インターネット通信環境など、現代的な教育活動に必要な設備を整えたうえで、学部独自のものを含めた海外研修の支援を行っています。国立大学法人を取り巻く昨今の経済環境にもかかわらずこれらの学生支援が可能となっているのは、後援会、同窓会をはじめとした関係諸団体のお力添えによるところが大きく、ここに改めて御礼を申し上げます。

5) に関しては、国際的な評価を確立しているナスカ研究だけではなく、常勤教員当たりの研究業績数、科研費獲得額、科研費獲得件数等についても、同一分野学部グループのなかの上位に位置しています。また、附属研究所が自治体等から地域課題の解決に関する研究を継続的に受託し、研究を社会貢献につなげていることも、全国の人文社会科学系学部の注目を

集めています。現在、質の高い研究時間を確保するための全学的な取り組みもはじまっており、学部としても研究体制の強化を今後も進めます。

一方、改善を要する点として、重複する表現など整理が必要な部分がディプロマ・ポリシーに見られるとの指摘をいただきました。この件につきましては、すぐに学部としての修正案を協議し、全学の教育推進機構運営会議での承認を得て、より明確な学位授与方針を目指した改善を行いました。

また、下記の3点に関わる助言・提言もいただきました。

- 1) 高大連携の充実
- 2) 学生ケアの充実、外部連携
- 3) 学生自身による学修管理の充実

1) については、探究学習の充実・拡大等の状況について適切な認識を持ち、大学として効果的に関与することで効果的な高大教育の接続を行えるよう、コミュニケーションの充実をはかっていきたいと考えます。

2) については、現代の大学教育における重要な課題のひとつとなっており、より専門的な知見と実践が必要とされていることも確かです。学内対応を充実させるとともに、FD・SD等の機会を通じて、地域社会との連携についても探ってまいります。

3) について、教育職員免許状履修者などが利用する「履修カルテ」など、一部についてはすでに試みも始まっているところですが、教育改善の力を強化する試みとして、今後も様々な試みに挑戦していきます。

以上のように、今回いただいた報告書は、これまでの人文社会科学部の取り組みを改めて振り返り、次の行動につなげるための、大変重要な機会を提供してくださいました。委員の皆様には、お忙しい中、詳細な報告書を作成していただき、心より御礼申し上げます。

山形大学人文社会科学部長 森岡 卓司